

令和8年
菊川市こども議会

令和8年8月17日（月）

菊川市こども議員名簿

	学 校 名	氏 名	題 名	グループ
1	小笠南小学校	まつした りあん 松下 凜杏	みんなが元気になる子ども食堂	A
2	小笠北小学校	ささじま みりあ 笹島 美愛	子育てしやすいまち	
3	六郷小学校	あかほり らん 赤堀 蘭	若者の政治参画についての2つの提案	
4	堀之内小学校	きうち のあ 木内 希海	菊川市がいつもやっていることについて	
5	岳洋中学校	はまむら ひろき 濱村 弘樹	ポイ捨て減少作戦	B
6	小笠北小学校	とづか この 戸塚 心乃	一人暮らしのお年寄りが楽しく安心してくらせるように	
7	堀之内小学校	ながた くれは 永田 来羽	未来の菊川市の不法投棄	
8	内田小学校	わしず みあい 鷲巣 未愛	菊川市の動物の命を守りたい	C
9	小笠北小学校	すすき ここな 鈴木 心菜	動物の命も大切に	
10	小笠南小学校	なかだ まひろ 中田 優光	事故がない菊川市に向けて	
11	小笠北小学校	よしだ みすき 吉田 瑞希	夏の子どもの居場所	D
12	堀之内小学校	むろ きおん 室 貴恩	通学路の危険箇所を見直しをすることについて	
13	小笠北小学校	はしもと りこ 橋本 梨瑚	災害時、外国籍の人の安全誘導について	

こども議長

グループ名	こども議長名	小学校名	備考
Aグループ	まつした りあん 松下 凜杏	小笠南小学校	Dグループ発表時の進行を行う
Bグループ	はまむら ひろき 濱村 弘樹	岳洋中学校	Aグループ発表時の進行を行う
Cグループ	わしず みあい 鷲巣 未愛	内田小学校	Bグループ発表時の進行を行う
Dグループ	よしだ みすき 吉田 瑞希	小笠北小学校	Cグループ発表時の進行を行う

みんなが元気になる子ども食堂

小笠南小学校 6 年 松下凜杏

私が、子ども食堂のことを調べようと思ったきっかけは、お父さんがこども食堂をやっていて、他にも菊川市にこういった子ども食堂をやっている団体の人がどのくらいいるのかと、その人達がどういう思いで子ども食堂をやっているのか気になったので、子ども食堂のことについて調べようと思いました。

こども未来部や、社会福祉協議会の人にお話を伺ったところ、菊川市では、4つの団体の人が、子ども食堂をやっていることがわかりました。

そのうち、3つの団体の人は、誰でも参加ができるところで、1つの団体の人は、親のかいごでご飯を作るのが大変な人や、障がいのある人などを対象に、行っています。

これらの運営は、菊川市1%地域づくり活動交付金や、赤い羽根募金などが使われていますが、菊川市の人口が減ってきているため、赤い羽根の共同募金が少なくなっているのが現状です。

この他に、子ども食堂への支援は、地域の人や、NPO法人、企業、農家さ

んからも応援していただいたり、料理のお手伝いをしてくれたり、その時期にあった果物や、お米、野菜や、お菓子などを無料でプレゼントしたり寄付をしてくれます。

菊川市民のみんなが元気に暮らせるように、孫がいないお年寄りの方や、一人暮らしの方と、子どもたちが一緒になって楽しむ交流の場を少しでも増やして、お年寄りの方も、一緒に遊んだりして、元気に、仲良くなってくれたら、もっと、お年寄りの方も、前より元気に楽しく暮らせると思います。

そして、もっと子ども食堂を増やすためには、地域の人や、農家の人や、野菜や、果物、お米、お菓子などの寄付以外の、料理を作ったり、配ぜんなどのお手伝いをしてくれる人が、もっと沢山増えたらいいと思います。

これで、私の発表を終わります。

子育てしやすいまち

小笠北小学校 6 年 笹島美愛

私は子育てしやすいまちについて調べました。

最初に、なぜ子育てしやすいまちを調べたかというところ、私の家の近くのドラッグストアに子育て支援価格というものがあったからです。なので、私はこども未来部の子育て応援課に行き調べました。今、菊川市の子どもの人数が減ってきています。子どもが減っている理由は、親が不安を感じると思ったからです。なので、お金の不安と、環境の不安と、安心できるまちについて発表します。

まずは、お金の不安からです。しずおか子育てゆうたいカードというものがあります。

ゆうたいカードを持ってお店に行くと、割引してくれたり、一つ無料になったりします。

ゆうたいカードは、妊娠中にもらえ、妊娠中から 18 歳未満まで使えます。

また、病院代が 0 歳から 18 歳未満は無料になる制度があります。

次に、環境の不安です。子ども家庭センターでは、子どもから大人の誰でも悩みを相談できます。どんなことでも、プラザけやきや電話などで相談できま

す。その他にも、命を大切にする授業が菊川市の学校で行われています。

次は、安心できるまちです。みなさんは、お店で子ども用スプーンやコップがおいてあるのを見たことがありますか？その他にもおむつを交換できる場所があります。

これは、お店の人から子どもがいる人への気遣いです。お店の人だけではなく、私たちも支えなければいけません。私達ができることは、妊婦さんや子どもがいる人を支えることです。私たちが支えると、妊婦さんや子どもがいる人が安心できると思います。

しかも、こども園や保育園では赤ちゃんや子どもを預けることができます。

このように、菊川市は子どもたちや妊婦さんや子どもがいる人が過ごしやすいまちを作るために、市長さんはどのように作っていきますか？

これで私の発表を終わります。

若者の政治参画についての2つの提案

六郷小学校 6 年 赤堀 蘭

私は、若者の政治参画を広めるために2つの提案をさせていただきます。まず、若者の政治参加の現状について先に触れようと思います。現在、菊川市や国全体で若者の投票率の低さが大きな問題となっています。実際に、令和8年衆議院選挙の菊川市での世代別投票率を見ると、最も投票率の高い60から64歳の投票率84%に対して、投票率の低い20から24歳の投票率は42%と大幅に下回っていていることがひと目で分かります。このように、投票率の低さが若者の政治への参画の遅れを裏付けています。

投票にいかない理由を調べてみると、誰が当選しても社会は変わらないだろうという政治への不信感や情報の不足などの要因があると考えられます。

では、次に若者の投票率が低いと生じる問題をいくつか挙げていく事にします。1つ目は、若者世代が損をすることです。投票率が低いと、その世代に向けた社会保障などの予算が減り、年間で1人あたり数万円損をしてしまうという意見もあります。また、若者の声が届かないことにより、政治全体が古い価値観によって凝り固まってしまわないのでしょうか。

そして2つ目は、特定の候補者を応援するグループの票が強くなりすぎてしまうことです。結果的に一部の人の意見で政治の方向性、ましてや社会の方向性が決まってしまうことも考えられます。

このような問題を解決するために、現在菊川市では中高生の意見のアンケート調査や学校では模擬投票体験などの取組が実施されていると伺いましたが、依然として若者の投票率の低さは変わらない現状があります。

この現状を変えるためには、より実践的な体験が必要なのではないのでしょうか。そこで、私は若者の政治参画を広めるために2つの提案をします。まず1つ目は、小中学校における総合の授業で社会の課題について話し合う時間を設けることです。社会の現状を知ることによって危機感を持ち政治を自分ごととして捉えてもらうことができるのではないのでしょうか。また子供の頃から社会課題について関心を持つことで将来的に投票率を高めることも期待できます。

そして2つ目は、選挙年齢の引き下げです。現在の選挙年齢は18歳以上ですが、私は義務教育が終わり自らの意思で働くことのできる16歳まで引き下げを提案します。子どもにも国に対して声を上げる権利は大人と等しくあるべきだと私は考えます。また選挙年齢を引き下げることにより、投票をきっかけに政治をより身近に捉えてもらい、若者の政治参画が広まること

が期待できます。この提案は、菊川市が単独で行うのは難しいと思うので、菊川市として国に提案していただきたいと思います。以上が私の提案となります。ご検討の程よろしくお願いいたします。

若者の声や新しい価値観を取り入れることで、国のさらなる発展を望むことができます。今こそ若者による若者の若者のための政治が必要です。どうか、菊川市から若者の声や価値観が尊重される社会を作っていただきたいと思います。そして、その流れをいずれ国全体に広めていただきたいと思います。

菊川市がいつもやっていることについて

堀之内小学校 5 年 木内希海

私は、もっと小学生に菊川市について知ってほしいという思いで、菊川市の人がいつもやっていることについて調べました。

まず、菊川市について知るために、きかくせいさくかに行って菊川市について聞いてみました。

色々な話を聞いてみたら、菊川市総合計画という、計画を立てて菊川市を運営していることがわかりました。総合計画とは、子育て、教育、防災、健康、ふくし、いりょう、しょうがい学習、スポーツ、かんきょう、社会しほん整備、産業、観光、コミュニティーなどの分野で計画を立てることです。その他にも、菊川を誰もが夢かなう幸せそうせい都市になるように、次世代、安心、幸福、かいてき、やくどうという 5 つの魅力目標をやっています。

そのうえで、菊川が一番頑張っていることは、人口げんしょうをおさえる、かんわさくとすべての人が生き生き活躍する、てきおうさくです。

なぜ一番頑張っているかという、それらをやらないと、お祭りなどの地域活動ができなくなることや、空き地や空き家が放置されてしまったり、地域産

業のこうけいしゃの不足、必要けいひのぞうかなど、につながるからです。

それらのことから、実際に、でまえぎょうせいこうざを受けてみたらとても分かりやすく教えてくれて、菊川のことをもっとしれました。そこで、菊川市にてい案があります。

でまえぎょうせいこうざをもっと多くの学校にやってみてはどうでしょうか。それをするによって、菊川市についてもっと知る小学生がふえるからです。他にも、もっと菊川市に興味を持ってくれる子どももふえるからといったいいことがたくさんあります。私たち小学生が菊川をしって、菊川をもっと好きになり、しょうらい大人になって、菊川にくらせるようになればいいと思います。それらのことを考えて、てい案しました。これで私の発表を終わります。

ポイ捨て減少作戦

岳洋中学校 2 年 濱村弘樹

僕は、将来のセントラルパークが綺麗になっていてほしいと思っています。しかし今のセントラルパークではポイ捨てがあり、このままでは綺麗にならないと思います。そこで、どのようなことをすればポイ捨てが少なくなるのかを知るために、環境推進課と都市計画課の方々にお話をお聞きしました。

環境推進課では、ポイ捨てについてどのような取組をしているか、どんな方々がどんな活動をしているかを聞きました。令和 7 年度で、菊川市内のポイ捨ての量は 4.3 トンでした。しかしこの量はごみを拾った量であり、拾われていないごみがあるということを考えると、4.3 トンよりも多いということがわかります。また、主に捨てられている場所の特徴が、人目につかない所、手入れがされていない所、草がたくさん生えている所です。これらに対して、環境推進課ではパトロールを行ったり、SNS や広報で発信したりしています。また、草がたくさん生えている所で草を刈ったり、手入れがされていない所をしっかりと手入れをして綺麗にしたりして、ごみが捨てられている場所を減らしたりしています。自治会では、看板、監視カメラの貸し出し、補助金などを

出してくれています。

都市計画課では、公園のごみやごみ箱についてお話をお聞きしました。公園にごみ箱を設置できるかをお聞きしたところ、美化という視点から見れば有効だけど、分別することや家庭ごみを捨てることがあり難しいと言っていました。また、ごみ箱を設置した場合その管理を誰がするのかなどの、人手やお金が関係してくるため難しいと言っていました。そしてごみ箱を設置できなくなると、ごみが増えてしまうため、看板などで注意をしないといけないが、看板などで注意をしすぎると、一般的なルールを注意してしまうため、ごみを捨ててはいけないという当たり前のルールが当たり前ではなくなってしまいます。そのため看板などの注意をなかなかすることができなくなってしまいます。

僕は、環境推進課と都市計画課の方々のお話を聞き、ポイ捨てをする人の意識を変えるという提案をします。意識を変えるというのは、「ごみを捨てていい」という意識を「ごみはしっかりと決まったところで捨てる」という意識に変えるということです。そのために、今までよりも広報やSNSでの発信を増やしたり、講話を行ったりして再度ポイ捨てはよくないと、みんなに伝えるという取り組みを提案します。広報やSNSでの発信を増やすことで、見ている人から「ごみについての発信が多いから、自分もしっかりと意識していかなさ

や」と意識が変わると思います。また、講話で直接ごみについてお話しすることで再度ポイ捨てについての意識が高まり、ポイ捨てをする人が少なくなると思いました。一人でも多く意識を変えることで、ポイ捨ての量も減り、セントラルパークも菊川市も綺麗になると思います。この提案を取り入れることで、セントラルパークも菊川市も綺麗になると思います。以上で提言を終わります。

一人暮らしのお年寄りが楽しく安心してくらせるように

小笠北小学校 6 年 戸塚心乃

最近では、菊川市の高齢者の一人暮らしは 1 年に 100 人は増えています。高齢者が大変に思っていることは、お風呂に入るのも不安だそうです。でも 1 番に不安に思っていることは家の中でたおれてしまってもだれもきづいてくれなくてそのままになってしまうことです。

私は子どもと、お年寄りが交流をやっているか気になりました。

1 つ目は、小学 5 年生以上のボランティアのデイサービスの交流です。

ボランティアで高齢者のデイサービスは小学生 12 人でした。

2 つ目は、スクールガードです。朝登校していると毎日スクールガードがいるので安心して登校できて、その時にスクールガードさんと話せて楽しいです。

子どもとの交流のいいところは、お年寄りの方がとても喜んでくれることです。

私は、子どもとの交流をもっとやったほうがいいと思います。子どもたちはお年寄りのことを知って、お年寄りは子どもたちのことを知りお互いが相手

のことを知ることがいいと思います。

前はラジオ体操がありました。しかし、夏は暑くて熱中症になってしまう可能性があるのではなくなっていました。なので、私は公民館の室内で、小学生とお年寄り交流ができる場がほしいです。公民館の室内だと、涼しく、熱中症になる可能性が少なくなり、交流もできます。

小学生も、お年寄りも交流をすると「嬉しかった」「楽しかった」などの声がありました。

ほかにも、地域や、となりの家のお年寄りを気にかけてたりすると、安心して過ごせたり、見かけたら挨拶をしたり、話しかけることをすればお互いが楽しくなります。

なので、私は公民館の室内を使ってお年寄りと小学生が交流をしてお互いを知ったり、気にかけてたりすると、楽しく安心して暮らせるようになると思います。

以上で私の発表をおわります。

未来の菊川市の不法投棄

堀之内小学校 5 年 永田來羽

私は、菊川市の不法投棄について調べたいと思い、環境推進課の方の話を聞いて今の菊川市の不法投棄について調べました。

今の菊川市を歩いていると、タバコやお菓子のごみを道に捨ててしまう不法投棄がされていると感じました。もう使わないマスク、ペットボトルの不法投棄もあります。

その不法投棄されたごみは、山や道のすみや草むらなどの人目につかない場所に捨てられていることが多いとわかりました。その中でも山では、机などの大きいごみが捨てられていることがわかりました。

その不法投棄されたごみは、だれが集めてくれているのか、だれが処分してくれているのかを調べてみました。不法投棄されたごみは、自治会の団体の方や、菊川市の職員、都市計画課や、市のボランティアの方たちが、拾って捨ててくれています。その中でも自治会の団体の方は、看板を配布したり、カメラを貸し出ししていたり、職員の方は、学校に行き不法投棄などの勉強やよびかけを行っているそうです。ほかにも SNS など、発信もしているそうです。

そして、その不法投棄されているごみは、どのくらいのひん度で回収されているのか調べてみました。菊川市の職員の人たちは、1 か月に1 度ほど、菊川市をパトロールしているそうです。ほかにも団体の方や、ボランティアの方は、毎日ゴミ拾いをしていてくれる人や、1 週間に1 度ゴミ拾いをしていてくれる人もいます。ですが、1 年に1 度のごみゼロの日には、約1 万人の方がゴミ拾いに参加しているということがわかりました。

他にも、自分たちで、活動していることもあります。菊川市のいくつかの小学校では、プロギングという、歩きながらごみを拾う活動で、その中でもどの小学校が1 番拾うことができるのかとゴミを拾う活動をしていることを知りました。

また、環境推進課の方に聞くと、昔より不法投棄による通報が少しへってきていることがわかりました。昔は、不法投棄による通報が70 件ほどでしたが、去年の年間の通報数は、13 件になっていて通報数がへってきていることがわかりました。

次は、不法投棄を行ったときの罰について聞いてみました。そうすると、不法投棄を行うと、5 年以下の拘禁刑、1,000 万円以下の罰金になることがわかりました。ですが、菊川市の不法投棄の量は、4,300 kg の不法投棄が行われていることがわかりました。

ここまで調べてみて、私は、菊川市が未来では、不法投棄が少なくなって、ほしいと思います。ですがそのためには、不法投棄がしにくい、環境をつくることが大切だと思いました。実際に環境推進課の方に聞いてみると、花がきれいにならんでいる花壇や神社のとりいの看板がある場所には、不法投棄があまりされていないということを知りました。なので、私は、ごみの不法投棄をなくすには、環境の整備、看板をよく不法投棄されている場所や山付近に置けば、不法投棄が少なくなると思いました。

以上で、私の発表を終わります。

菊川市の動物の命を守りたい

内田小学校 6 年 鷺巣未愛

私は、野良猫、鳥獣が道路でひかれているのを見て悲しい気持ちになったので命を守りたいと思ったので菊川市の動物について調べました。

1 つは野良猫についてです。菊川市には野良猫がたくさんいます。けれど 1 年で野良猫の道路上でなくなった数は 146 匹、月に約 12 匹なくなっています。とくに 6、7、8 月が多いです。

猫以外にはたぬきが多くなくなっています。菊川市ではたぬき 173 匹、鳥、小動物 62 匹、ハクビシン 43 匹、カモシカやニホンジカ 26 匹、亡くなっています。他にも捨て猫がいると他の家にも迷惑になったり病気や事故で命を落としてしまいます。野良猫が可哀想と思い餌をあげてしまうと猫は赤ちゃんを 1 匹につき 1～9 匹ほど産みます。そうするとまた増えてしまい生まれてきた赤ちゃんも病気や事故でなくなってしまうことがあります。避妊手術をする場合はオス猫が 1～2 万円、メス猫が 2～3 万円です。その中に補助金がオス猫 6,000 円、メス猫 9,000 円です。最初は少なかった猫が避妊手術をしていなかったことで猫が増えてしまい猫を捨ててしまうというケースが全国

的にも大きな問題です。人の手によって捨てられた猫が病気や事故でなくなってしまうということが私は無責任だと思います。

このような問題の対策として野良猫に「餌をあげないで」という看板や道路脇に「動物注意」という看板をつけてみてはどうでしょうか。

2つ目は有害鳥獣についてです。森にいた動物が森に食べ物がなくなってしまい街に下りてきてしまっ畑や田んぼを荒らしてしまいます。

畑や田んぼを荒らしてしまった動物は有害鳥獣となり残念ながら処分されてしまいます。主な鳥獣はイノシシです。令和7年の菊川市のイノシシの捕獲頭数は189頭います。令和6年は155頭、令和5年は159頭捕獲されています。イノシシの被害は多く稲やイモ類、果樹が多く被害にあっています。菊川市の田んぼや畑では電気柵をつける取組を行っています。

しかし鳥獣も人間と同じ生き物です。イノシシや猫にも食べ物を食べる権利があるし、幸せに暮らす権利もあります、だから私は人間も動物も幸せに暮らせる菊川市にするためにもっと取組を増やしたり、切った木はまた木を植える、森に食べ物を増やすなど、自然を守り続ける、人が取組をするということ、一人ひとりが生き物に対する気持ちを持つこと、野良猫、生き物をかう責任を持つことが大切だと思います。

これで私の発表を終わります。

動物の命も大切に

小笠北小学校 6 年 鈴木心菜

私は、助けが必要な猫も大切な命として、不幸な命ではなく、幸せな命になってほしいと思います。なぜなら、助けが必要な猫に出会ってもそのお家では飼えなかったり、負担が大きくて助けたいのに助けてあげられないことがあると思ったからです。外にいる猫たちも、外で生活したくてしてるわけじゃないと思うし人間が外飼をしたり捨てられてしまった猫たちです。

そのような猫たちが少しでもなくなるように、5つ提案します。

1つ目は、避妊去勢手術をしてあって耳カットをしていない外に自由外出させている飼い猫は、外で管理している猫との区別がつかないため、新たに猫を飼う場合は、安全な家の中で買うことを「ルール化、義務化」してほしいです。普段、自由外出させている飼い猫は、急に外に出られなくなってしまうとストレスが溜まってしまいます。そのため、新たに猫を飼う場合は安全な家の中で飼ってほしいです。

2つ目は、個人で保護活動、新しい飼い主を探す活動をしていてくれる方に負担が大きくなるように、支援をもっと充実させてほしいと思います。去

年もこども議会で述べた通り、少しでも多くの命を幸せにするために補助金を増やしてほしいと思います。

3つ目は、市内の空き家などを利用して、助けが必要な猫を管理する場所をつくることです。でも問題として飼い主が見つかるまで、その猫たちを育ててくれる人がいないと、飲み水もご飯ありません。そのため、猫が好きで信用できる人に、そのお仕事を担ってもらう必要があります。

4つ目は、災害時にペットと一緒に避難しやすいしくみをつくりたいです。災害が起きると避難所では、沢山の人が避難しています。なかには猫だけでなく、動物が苦手な人やアレルギーである人もいると思います。

そのため、ペットと飼い主さんの同行避難だけの場所を作って分けるといいかと思います。先月起きた令和8年熊本地震では、2匹の動物を1つのゲージに入れていたり、車中泊をしてなれない環境でストレスが溜まったり、体調不良になっている動物もいます。熊本では、ペットも同行避難が可能な避難所が2ヶ所しかないということも、ニュースにもなりました。

菊川市では、防災ハザードマップ指定避難所の一覧がありますが、ペットオウケーのマークが書いてありません。動物のマークなど一目でわかりやすいマークがあってほしいです。

5つ目は、命の大切さをたくさんの人に知ってもらうために、学校などでふ

れあいや動物愛護教室をもっと増やしてほしいです。

現在、菊川市では小学校が9つありますが、毎年、3年生が対象で、3つの小学校で行っています。受けられていない人たちができてしまうため、すべての人が動物愛護教室を受けられるような仕組みになってほしいです。

このように動物にも人にも優しい菊川市を実現するために、市や学校、地域の人にも協力してもらい、1つずつ取り組んでいくことが大切だと思います。これからの菊川市ではもっと幸せな命が増え、動物にもやさしい輪がこの子ども議会を通じて広がることを心から願います。

これで私の提言を終わります。

事故がない菊川市に向けて

小笠南小学校 5 年 中田優光

僕が車のスピードの制限について、調べようとしたきっかけは、家の前を通る車がものすごいスピードで走っていて、目の前で大きな事故が起こりそうになって、とてもこわい思いをしたことがあったからです。そのため、スピードをおさえるかんばんが、どんな場所にあるのか、どのようなデザインがあるのか気になったので、スピードをおさえるかんばんについて調べようと思いました。

担当の地域支援課の方に、自分の家の前のあまり広くない道でスピードを出している車の事を伝えました。この車は、朝や夕方に仕事の行き帰りで急いでいるのではないかとと思っています。そのため、スピードをおさえてもらうための、かんばんのことをたずねました。そうしたら、いろいろな種類のかんばんや、のぼりばたを教えてくださいました。その中でも僕が1番スピードをおさえるこうかがあるのは、「子どもに注意」といったデザインのものをつける子どもが飛び出すかもしれないと思ってスピードを落とすのではないかと考え、かんばんやのぼりばたなどを市の職員の方や、自治会などの地域の方に、

設置してほしいと思いました。

他に教えていただいたこととして、今年の9月からは、センターラインがない道は法律として、時速30キロ以下で走らなければいけないそうです。そこで僕が考えたことは、いくら法律で決めたとしても、守らない車がいるかもしれないという考えにたどり着きました。センターラインがない道のはじめに30キロの、そくどきせいの丸いひょうしきをせっちすれば、30キロ以上で走る車がいなくなると思いました。なので事故をふせげる町になると考えました。

他に交通安全で気になったことは、夜遅くに、おおきな音を出している車やバイクが走っていて、きけんではないのですが、まわりに住んでいるたくさんのかたに、たいへんめいわくがかかっていると思います。なので、まわりの方にめいわくがかからないように、もっとまわりの事を考えて、車やバイクなどの運転をすれば、ちいきの方にもめいわくがかからず、もっと住みやすい菊川市になると思います。

このようなあぶない道も他にもあるかもしれないので、こういったかんばんや、のぼりばたを、設置する取組を市や自治会で進め、すみごちのよい菊川市になるために、対策をよろしくおねがいします。

夏の子どもの居場所

小笠北小学校 6 年 吉田瑞希

私は、夏に子どもが涼しく自由に遊べる場所が欲しいです。特に小笠地域に欲しいと思います。

私は、友達と勉強をしたり、シール交換やおしゃべりしたりしたいです。でも、いまは、外が暑すぎて子どもは外で遊べません。また、家でもお父さん、お母さんが仕事でいなかったり、兄弟が勉強していたりすると遊べません。さらに、雨が降っているときや、月曜日で図書館も児童館もやってないときは友達と遊べません。また、小笠には「きくる」のようなフリースペースがありません。なので私は夏に子どもが涼しく自由に遊べる場所が欲しいです。

そのために 4 つ提案します。

1 つ目は、地区センターのロビーと中央公民館のフリースペース、クーリングシェルターが使えることを知らせることです。今は、使えるのに使っている子どもが少ないです。なので、使っていいということを外が暑くて遊べず、困っている子ども達に知ってもらう必要があると思います。知ってもらえれば、外で遊べず困っている子ども達が、涼しい場所で遊べると思います。

2つ目は、ロビー以外にも、予約無しで使える場所を増やしたいです。

今ロビーは、予約無しで使えるけど他の部屋は予約しないと使えません。

地区センターによっては、ロビーは少人数しか使えないと思います。ロビー以外にも、予約無しで使える場所が増えたらより多くの人が涼しい場所で遊べると思います。

例えば、地区センターの普段予約のあまり入らない部屋や、「このゆびとまれ」が普段使っている、中央公民館の部屋が夏休み期間もし、空いているのなら使わせてもらいたいと思います。

3つ目は学校施設を開放してほしいです。

勉強も遊びもできるような場所が欲しいので、多目的ホールのようなどちらもできる場所を開放してほしいです。多目的ホールを開放すれば勉強もでき、遊ぶこともできる場所になるので、多くの人に使ってもらえると思います。

4つ目に、他の企業さんと連携して子供の居場所を作ることです。

実際に、市内の自動車販売店から「平日はあまりお客さんが来ないので、夏休み中に子どもの遊び場や、クーリングシェルターとして使ってください」というお話があったそうです。

クーリングシェルターをやってくれている企業さんと連携して、涼しいフリースペースを子どもにも確保してほしいです。

以上4つの提案を踏まえて、夏に涼しく自由に遊べる場所がある菊川市になってほしいです。この提案が実現すれば、暑い外で遊ぶ必要がなくなるので、熱中症になるリスクが減ります。また、家で一人でゲームやスマホを見ている時間が短くなると思います。さらに、中央公民館や地区センターに誰でも来れるようになれば、違う学校や違う学年の人と関われます。

私の提案が実現すれば、暑い外で遊ばなくて良くなり、幸せな人が増えると思います。提案が実現することを求めまして、発言を終了いたします。

通学路の危険箇所を見直しをすることについて

堀之内小学校 6 年 室貴恩

私は、登下校中、道が狭かったり、横断歩道がないところをわたらないといけなく、大変です。なので、道路の危険箇所を見直す機会を増やしたらいいのではないかと思います。

私が気になっている場所では、グリーンベルトが片側にしかありません。登校のときは、道路の反対側から登校してくるグループと合流するために、グリーンベルトがある側へわたっています。しかし、下校のときは、グリーンベルトのある側を通ると、家が反対にある子供は途中で道路をわたらなければなりません。しかし、その場所の近くには横断歩道がありません。そのため、子どもたちは、登校のときだけグリーンベルトがある方を通して、下校のとき一部の子供はグリーンベルトがない方をわたって帰っています。なので私は、車からしても子どもたちからしても下校のときは、とても危険だと感じます。

最初は、「道路を広くしたり、横断歩道をつくればいいのか」と考えました。そこで市役所にある地域支援課というところでこの危険箇所についてどう思われるかを聞きました。そしたら毎年「通学路点検」という取組の

中で確認されていることが分かりました。この点検には、道路を管理する人や市役所の担当課、学校の先生、保護者、PTAなどが参加しています。また、学校では6年生を対象に、授業の中で通学路の危険な場所について意見を聞く取組も行われています。

このような取組があることは、危険箇所を見直す機会になるのでとても良い取組だと思います。しかし、まだ私たちが危険だと感じることは沢山あり、通学路点検は、年に一回やっているそうですが、一回だけでは、危険箇所の把握などだけで、整備などが不十分だと思います。

そこで提言です。通学路点検を今より多く行ったり、子供やその保護者などから意見を聞く機会を増やしたりして、危険な場所をもっと見つけられるようにしてほしいです。そして、そのことをもとに、子供やその保護者目線でも通学路を整備していただきたいと思います。

子供たちが安心、安全で学校へ通うことで、保護者や先生たちも安心して学校に通わせたり、帰らせたりすることができ、もっと安心、安全の高い菊川市となるとと思います。ぜひ、私のような子どもたちの意見も大切にし、通学路の整備に役立ったら嬉しいです。菊川市がもっと安心、安全で暮らせるようなことができるように願っています。

以上で私の発表を終わります。

災害時、外国籍の人の安全誘導について

小笠北小学校 5 年 橋本梨瑚

私は、菊川市子ども議員、議席番号 13 番の橋本梨瑚です。今回私が子ども議員になった理由は、私のクラスは、30 人です。その内、6 人が外国籍の人です。菊川市は、多くの外国籍の人が住んでいると聞いています。災害が起こると、私たち日本人も不安になるけど、友達である外国籍の人が災害に対して不安を持たないようにするために、日頃からどうしたらいいか私は、今回のテーマを決めました。

こども議会の 1 日目に出した私の質問は、7 つありました。1、災害時、外国籍の人のための避難誘導看板があるか。2、なければ今後、看板を付ける予定があるか。3、外国籍の人のための大人用の日本語教室があるか。そして、どこで行われているか。また教室は、どこに申し込めばいいのか。4、病院の外国籍の人の災害時の対応は、整っているか。5、消防署の外国籍の人の災害時の対応は整っているか。6、防災訓練への外国籍の人の参加率はどのくらいか。7、災害物資で外国籍の人用の食料はあるか。以上のことをもとに私は、菊川市危機管理課、消防署、菊川市立総合病院、地域支援課に行き、質問をさ

せていただきました。

その中で更に私は、疑問点と、初めて知った事がありました。7月1日に菊川市に住むことになった人に、渡すウェルカムリーフレットに外国籍の人の言語が書いてないことです。危機管理課に関しては、防災訓練の外国籍の人の参加者数が令和7年で86名で、コロナ前の令和元年が143名と聞きました。コロナがあったとはいえ、4,000人以上の外国籍の人が菊川市にいるのにもかかわらず、令和7年に関しては、防災訓練への外国籍の人の参加が約2%の参加率で大丈夫なんだろうか、と思いました。病院では、外国籍の人に対して、ゆっくり優しい言葉で話せば、通じる事がわかりました。消防署では、日本語も含め6ヶ国語に緊急時に対応できる案内表示板があり、工夫されていると思いました。地域支援課では、外国籍の人のための日常において災害時誘導看板の必要性に共感してもらいました。さらに外国籍の人が集まる場所では、災害時の対応についていろいろアクションを起こさないといけないことも知りました。そのうえで外国籍の人でも日本語に歩み寄ってもらう必要がある事がわかりました。いずれにしても菊川市は、日本人と外国籍の人とも、一緒に仲良くなる必要があります。より良い菊川市になるように私も、外国籍の人たちと交流を深めていきたいと思いました。

皆さんに見せたいものがあります。先程私が申したウェルカムリーフレッ

トはこれです。外国籍の人の言語もウェルカムリーフレットの中に入れることを考えてもらいたいです。

最後になりましたが、熊本県での地震で大きな災害を受けたみなさんに心よりお見舞いを申し上げます。以上でとうだんでの私の意見とさせていただきます。